

明治家 実業列伝 ①⑥

錦戸 景訓

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野 正道



明治農法

明治維新後、「文明開化」とともに「殖産興業」が叫ばれました。このスローガンの下、全国各地に紡績工場や製鉄工場が作られたのです。他にも、鉄道の建設や建物の洋風化も進められたこともあり、明治の産業政策という点では、工業を中心とした西欧化という印象が強いのではないのでしょうか？

しかし、こうした目に見えやすい「文明開化」「殖産興業」の一方で、地道に技術改良、近代化が進められていた産業があります。それは農業です。明治後期、日本の世帯数は約一千万戸（人口は四千万人台）でしたが、農家数はその半分を占めていました。実は、明治における日本の基幹産業は農業だったのです。したがって、農業の近代化も、明治における産業政策の重要な課題だったのです。

それでは農業の分野で、どのような技術改良が行われたのでしょうか？ 主なものとしては、牛馬や新しい農具を用いた深耕、肥料の効果的使用、品種改良、耕地整理などがあり、これらを総括して「農事改良」「明治農法」とも称しています。この明治農法の普及は、農作物の収穫量を大幅に増加させ、近代化が進む日本の食生活を支えたのです。

宮城県の農事改良

宮城県でも、明治時代には様々な農業技術の改良が進められました。なかでも重点的に

取り組まれたのは、水田稲作と養蚕でした。

かつて仙台藩産の米は、江戸の市場に大量に出荷されていましたが、明治時代になると急速に品質が低下し、市場評価が下落してしまいました。また、宮城県の米生産は、気象条件などから、反収は全国でも最低レベルの一反歩（約一〇アール）あたり一五〇キロ強にとどまっていた。昔も今も、宮城県の農業は水田稲作が中心です。米の収量と品質のアップは、喫緊の課題だったのです。

詳しいことは省略しますが、宮城県内でも農事改良が実践された結果、大正時代の米の平均反収は三〇〇キロ近くにまで増加し、全国平均にもかなり近づいたのです。

一方、養蚕は明治時代の重要産業に成長していた生糸の原料生産につながるものとして重要視されました。蚕の餌となる桑を植える畑は急速に増え、山林や河原なども次々と開墾され、桑が植えられていったのです。

養蚕への取り組み

こうした農事改良には、各地の篤農家が県や市町村などと連携して取り組みました。その代表的な人物の一人が、錦戸景訓です。

景訓は、弘化三（一八四六）年、仙台藩の中級藩士の家に生まれました。藩校・養賢堂で学んだ後、戊辰戦争に従軍しましたが、戦後は宮城郡七北田村（現、仙台市泉区）に住み、農業を志しました。

景訓は、農業の進化が地域や国を発展させ

るものと認識し、先進地から指導者を招聘しながら、積極的に農事改良に取り組み、その普及に努めたのです。例えば稲作では、馬耕の普及や栽培技法の改良に取り組み、自費で馬耕用の農具を購入し、こうした機械を購入できない人たちに貸与したりしています。

もう一つ景訓が熱心に取り組んだのが養蚕です。景訓は、村人たちに桑の苗木を無償配布したほか、長野県に自分の子供を派遣して養蚕を学ばせました。さらに、養蚕だけでなく生糸生産まで一貫して行うことが、地域の産業振興により役立つと考え、明治二十三（一八九〇）年、自分の屋敷内に水車を利用した製糸工場を創設しています。

このように、農事改良に熱心に取り組んだ景訓は、現在の農業協同組合の前身とも言うべき農会の役員となり、さらには県農会や郡農会の会長も務めています。また景訓は、地元・七北田村収入役のほか、郡会議員や県会議員の職を歴任し、製糸工場以外にも幾つかの会社の経営に参画するなど、その活動は農業分野にとどまりませんでした。

こうして宮城県の農業振興に大きな足跡を残した景訓は、大正六（一九一七）年三月二十七日に没しました。七十二歳でした。



七北田での馬車の買い付け風景（明治四十一年宮城郡写真帳）七北田周辺では、農事改良とともに馬の飼育も盛んに行われ、馬車や農耕馬の産地となっていた

仙台市史

好評発売中

通史編6 近代 1

明治時代の仙台 近代化とそのくらし

◆A5判 520頁 オールカラー ◆定価3000円(本体2858円)



耕地整理後の水田（宮城郡高砂村 明治41年頃）明治時代、宮城県内各地で耕地整理を含め、農業技術の改良が実践され、農業生産は大幅に伸びた

お求め先 県内主要書店・仙台市博物館/株式会社教科書供給所 TEL.022-235-7181 FAX.022-235-7183
お問い合わせ先 仙台市博物館市史編さん室 〒980-0862 仙台市青葉区川内 26 番地 TEL.022-225-3074